北杜市

麻しん・風しんワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

●麻しん

麻しんは、麻しんウイルスによって起こる、非常に感染しやすい病気です。免疫を持たない人が感染すると、ほぼ100%発症します。

2007年から2008年にかけて、麻しんが10～20歳代で大流行し、高校や大学が相次いで休校になりました。麻しんは子どもだけの病気ではなく、大人でも注意が必要です。

主な症状は発熱、せき、鼻水、めやに、発疹等です。合併症として、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などの症状があります。

予防接種を受けずに麻しんにかかった人は、数千人に1人の割合で死亡することがあります。麻しんは感染力が強い病気なので、免疫を持たない妊婦が麻しんにかかると流産や早産になります。

●風しん

風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹などを特徴とするウイルス性の発疹症です。関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などを合併することもあります。

子どもの場合は数日で治ってしまう比較的軽い病気ですが、大人になってからかかると重症になるため、注意が必要です。

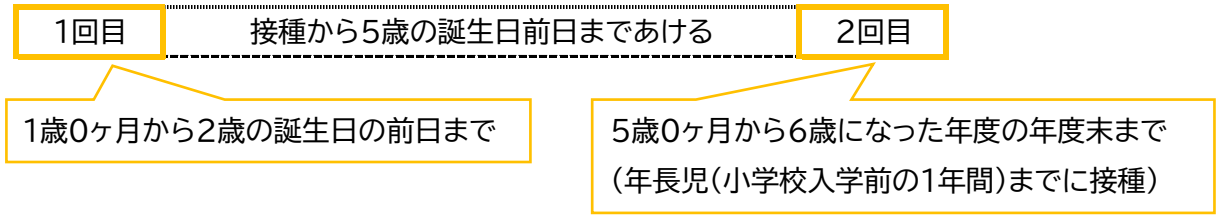
妊婦、特に妊娠20週頃までの女性が風しんにかかると、胎児も風しんウイルスに感染し、目、耳、心臓などに先天性の病気をもつ可能性があります。この病気を先天性風しん症候群といいます。

2　ワクチンの説明

麻しん・風しん(MR)ワクチンは、それぞれのワクチンの混合ワクチンです。

●副反応

〇接種後から約1週間で5～20%程度の人に発熱がみられます。
〇けいれん等の普段と異なる症状が見られたら、速やかに接種医療機関を受診してください。

●接種の標準的な時期　**第1期＝1回、第2期＝1回、合計2回接種する**

生後12か月(1歳)から24か月(2歳)の間に1回接種します。1回目と2回目の間は5歳の誕生日前日までの間隔をあけて、5歳から小学校入学前(年長児)までの1年間に接種します。